

令和6年度 上郷地区・末野原地区 わくわく事業 活動報告書

令和7年2月作成

「わくわく事業」とは、地域の組織や市民活動団体などが、住みやすい地域づくりに向け、地域資源を活用し、主体的に取り組む事業に対し、補助金を交付する仕組みです。

「わくわく事業 活動報告書」は、令和6年度わくわく事業の補助団体の活動内容を多くの皆さまに知っていただくため、令和7年1月末までの活動報告をまとめたものです。

○ 活動団体

	団 体 名	ページ
上郷地区	畝部まちづくりの会	1
上郷地区	緑野の会	3
上郷地区	せせらぎ遊歩道愛護会	5
上郷地区	きらく会	7
上郷地区	上和会花くらぶ	9
上郷地区	家下川リバーキーパーズ	11
上郷地区	和太鼓 神兎	13
上郷地区	川田まちづくり	15
上郷地区	高嶺まちづくりの会	17
上郷地区	キッズプランナー	19
末野原地区	元気の出る森づくりの会	21
末野原地区	鶯鴨音頭制作委員会	23
末野原地区	宗心洞公園を守る会	25
末野原地区	渡刈町サポート会	27
末野原地区	ふるさと訪問末野原の会	29
末野原地区	TONARI	31

わくわく事業活動報告

団体名 畝部まちづくりの会	
事業名 畝部まちづくりの事業	
会員数 38名	主な活動場所 畝部地内
事業費(補助額)448,544円 (403,000円)	
【主な使途】環境美化作業、活動新聞の発行 うねべフェスタ／雨天中止	
事業目的 安全で安心な町づくりの推進	
主な活動内容 ①上郷中学校通学路、県道239号の不法投棄物の回収等の環境美化作業 ②疎遠に成りがちな地域の人々との交流の機会を設ける。 ・畝部フェスタの開催。 ・高齢者のマレットゴルフ大会の開催 ③区長会と定期的な連絡会を設け、地域との連携を図る。	
活動の成果 ①上郷中学校通学路、県道239号の不法投棄物の回収等の環境美化作業 4月、6月、8月、10月、12月に実施。3月も予定通り実施します。 ②疎遠に成りがちな地域の人々との交流の機会を設ける。 ・畝部フェスタの開催 *今年度は雨天で中止した。 ・高齢者のマレットゴルフ大会の開催：10月26日に開催し、80名の参加を頂いた。 ③区長会との定期的な連絡会を設け、地域との連携を図る。 6月、12月に開催した。防犯カメラ設置について意見交換した。	
課題 発足して20年になり、畝部まちづくりの会の組織についての見直し 背景：会員の高齢化と、入会会員の高齢化	
今後の取組 既に組織全体の見直し、活動内容の見直しを、随時行っています。	

マレットゴルフ大会



不法投棄の回収作業



上郷中学校の通学路の草刈り作業



わくわく事業活動報告

団体名 緑野の会	
事業名 ①三河上郷駅前広場美化事業 ②うねべ里山事業	
会員数 20人(実働16人)名	主な活動場所 三河上郷駅前広場・うねべ里山
事業費(補助額) 180,000円 (162,000円) 【主な使途】 ①花苗代金1,400p(総額の72%)、肥料(6%)、②刈払機用替刃・草取り具・混合油(7%)、その他共用(茶、ごみ袋、事務用品、ボランティア保険)15%	
事業目的 「豊かな自然環境が心豊かな人を育てる」を基調に、地域の環境保全に勤める。この活動を通して会員の生き甲斐作りを目指すと共に地域社会に貢献する。	
主な活動内容 ① <三河上郷駅前広場美化事業> 平成14年度から継続23年間。 ・年2回(5/17、10/18)花苗植え付け作業 合計1,400p ・毎月第3金曜日 AM7:00～(12月～2月は8:00～)除草作業(年12回 延べ190人) ・当番制による日常的な水やり ② <うねべ里山事業> 平成18年度～継続19年間。(年8回 延べ126人) ・毎月第1水曜日 AM7:00～。※2月のみ8:00～(1時間～3時間) (冬季10月、12月、1月、3月を除く) 下草刈り、竹林整備、枯れ枝収集作業、遊歩道の保全作業、丸太橋の補修架け替え、用水土手の除草作業。6月、9月には間伐した竹・樹木、枯れ枝を里山より搬出。地元自治区環境美化活動とタイアップし市環境部による回収処分の協力を得ています。	
活動の成果 <三河上郷駅前広場美化事業> 22年間市民に癒しの空間を提供し続け駅利用者や市民に、美化意識とボランティア活動への理解を深められた。安心安全を目的に始まり、冬の風物詩として今年度19回を迎えるイルミネーション事業へ協力しました。 <うねべ里山事業> 隣接する柳川瀬公園との一体感が生まれ、ウォーキング愛好者などからも好感を得ています。自然林らしい落ち着きと四季を感じさせる里山になった。地域活動との連携・コミュニケーションにより活気ある活動となりました。	
課題 花壇の脇のケヤキが大きくなり伸びた枝が 花壇を覆い日陰になり、憩いの場の日よけにはなるのですが お花に日がささなくなり、さらに葉っぱから落ちる雨粒が花を傷めている。秋から冬にかけて大量の落ち葉が花壇、広場を覆いつくすようになってきた。うねべ里山の樹木が北側水路横の道路を超えた私有農地が日陰になってしまう。畑の地権者からの意見もあるので今後の課題。	
今後の取組 地域の声を反映した取り組みと、上記課題について少しでも解決できるように取り組んでいきます。人間的にも高齢化と減員の状態であり、各々の声掛けで楽しいコミュニケーションの場としても活用できる組織づくりを進めていきます。	

緑野の会（環境保全ボランティアグループ）活動紹介

令和6年度 三河上郷駅前広場美化事業の活動記録



令和6年度 うねべ里山整備事業の活動記録



わくわく事業活動報告

団体名 せせらぎ遊歩道愛護会	
事業名 新矢作緑道環境美化事業	
会員数 39名	主な活動場所 新矢作緑道（畝部西町智内）
事業費(補助額) 85,690円 (77.000 円)	
【主な使途】 草取り、花の苗、肥料、剪定道具、保険料、看板	
事業目的 豊田市が行う管理作業のみでは行き届かない、新矢作緑道の除草、低木の剪定、せせらぎの清掃及び花壇の維持管理を行い、緑を守り育てることにより都市景観の向上を目指すとともに、地域住民の良好な居住環境を維持し、散策・ウォーキングなどの身近なレクリエーションの場を提供することで、より良い地域づくりに貢献する。	
主な活動内容 ・ 緑道の草取り、せせらぎの排水口の清掃 ・ 花や植栽による環境美化、遊歩道を利用者の景観維持。 ・ 交通安全に配慮した道路環境の整備	
活動の成果 ・ 環境美化及び保全を目的とした活動をすることにより、地域住民の環境保全に対する意識の向上を図ることができた。 ・ 良好な住環境の構築が図られ、地域への関心及び愛着が高まり、より良いまちづくりへの関心を高めることができた。 ・ 環境美化・景観保全活動によって、地域住民の交流が図られるとともに、とりわけ高齢者の地域への参加・貢献意識が醸成された。	
課題 ・ 記録的な猛暑日が多く時間制限、人数制限により役員のみでの実施もあり事業は計画通りに進めることが出来なかったが、今年度も住環境、景観保全維持に努め自治区とも連携し活動を行い、組編成をして役割分担し個人負担の軽減を図る活動計画を立て実施したが、自治区内の他の行事とも重なり調整に苦慮した。 ・ 会員も高齢化し脱会者も増えつつある状況なので、募集はしているがなかなか応募がない。	
今後の取組 これまで築き上げてきた景観と環境保全の維持・向上を図るため、また高齢者の生きがいや交流の場として継続的に活動していきたい。	

活動の様子

春の樹木剪定



花の植替え（春）



低木の剪定



遊歩道の清掃



花の植替え（秋）



花壇の手入れ（女性部）



活動メンバー



団体名 きらく会	
事業名 個性豊かで活力ある、住みよい地域社会を構築するための事業	
会員数 10名	主な活動場所 上中島地域
事業費（補助額）108,164円 （ 97,000円） 【主な用途】 花の種・耕起作業 など	
事業目的 ① 休耕田を利用した花畑を、地域住民の集いの場とする。 ② 花を見て、地域に住む安心感とお互いの絆を構築する機会とする。 ③ 地域団体と話し合い、多くの方が外出して下さる活動を考える。	
主な活動内容 ・今年度も引き続き休耕田を利用した花畑を作り、地域住民が花を見に出かける姿を見ることができた。 ・自治区行事と連携して、コスモス畑を見ながら風車を作って遊び、多くの地域住民に楽しんでもらう機会を作った。 ・花を観て「やっと咲いてきたね。」という声もあり、住民の楽しみの一つとして期待してもらっていることを実感することができた。 ・ひまわりネットワークの「ひまわりの種を蒔き育てる」プロジェクトに参加してヒマワリの種をもらい、地域住民の方にヒマワリ畑を見てもらう機会を創出した。	
活動の成果 ・花を見に出かける住民の方が見られ、高齢者の方を中心に外出促進につながった。 ・自治区行事と連携したコスモス鑑賞会は、住民同士の交流の場になった。 ・地域外からは、花が欲しいとの要望や写真撮影をしにくる方が見られ、小学校、子ども園、施設からの見学など暖かく、ほほえましい姿があった。 ・種の高騰から会員の声で、コスモスの種取りをして、SDGsに取り組んだ。	
課題 ・コスモス、菜の花の種が計画時より高騰していて、畑全部に蒔くことが出来なかったが、蒔けなかった部分を、遊び場にしたり、かかしを作って飾ったりして地域住民同士で笑い合えるような空間するといった工夫をこらした。	
今後の取組 ・引き続き、休耕田を利用した花畑の整備と、自治区行事と連携したコスモス鑑賞会をやりたい。 ・来年度は会員が高齢者の為、無理なく開催できる企画を考える時間とする。	

令和6年度・きらく会活動写真



定例会議の様子



耕起作業



コスモスの播種作業



コスモス満開



皆で作成したかざぐるま

自治区住民が
楽しみました



こども園の園児が見学に来ました



ヒマワリネットワークの
カレンダーに掲載され
ました

わくわく事業活動報告

団体名 上和会花くらぶ	
事業名 上和会上屋敷交差点環境美化事業	
会員数 14名	主な活動場所 上和会上屋敷交差点角の空き地
事業費(補助額) 61, 950 円 (55, 000 円)	
【主な使途】 培養土、肥料、消毒薬、除草剤	
事業目的 ・ 上和会上屋敷交差点の一角を花で飾り、景観をよくする。 ・ 四季を通じて花壇の管理をすることにより、地域住民との交流を深める。 ・ 地域住民や交差点を通るドライバーの心を和ませる。	
主な活動内容 ・ 夏の花の種まきから育苗。(4月～5月) ・ 春の花を抜いてから土作り、そして夏の花の植え付け。(5月～6月) ・ 翌年春の花の、種まきから育苗。(9月～10月) ・ 夏の花を抜いてから土作り、そして翌年春の花の植え付け。(10月～11月) ・ 一年を通じて、毎日花の手入れと水やり。 ・ 一年を通じて、敷地に植えてある花木の手入れ、敷地の草取り。	
活動の成果 ・ 上和会上屋敷交差点の一角を、ほぼ年間を通じて花壇の花で飾ることができた。 ・ 交差点を通るドライバーや歩行者に癒しを感じて頂けたと思う。 ・ 上和会自治区のウォーキングイベントのウォーキングコースに花壇を入れて頂き、地域との交流が深まった。 ・ 豊田市民花壇コンテスト」に応募し、上位入賞ができた	
課題 ・ 種から発芽させ丈夫な苗を育てるための、水と温度管理が難しい。 ・ 害虫の異常発生への対応が難しい。 ・ 8月にピークを迎えた夏の花を、10月のウォーキングイベントまで持たせる事が難しい。	
今後の取組 ・ 事業費を減らすため花の苗を購入ではなく、種まきから苗を作る方法を今後も続ける。 ・ 10月のウォーキングイベント用に、傷んだ花の植え替え用苗を準備して植え替えを実施する。	

活動の様子



4月3日、春花壇の審査日(4月8日)の
前に花の手入れ。

- ・4月8日の春花壇審査の結果は1位獲得。
- ・4月23日、夏花壇用花の種まき。
アゲラタムとジニアの種を128穴セルトレー
5枚に播種。
- ・4月28日、夏花壇用花の種まき2日目。
マリーゴールドの種を3号ポットに播種
288本。
- ・各自の自宅で発芽から育苗をする。
- ・5月19日、セルトレーから3号ポットへ移植。



6月8日、夏の花の植え付け作業。
マリーゴールド、ジニア、アゲラタムの3種
類の花。



8月5日、夏花壇の審査日の状態。
審査の結果は2位でした。



10月6日、来年の春花壇の準備。
セルトレーの苗を3号ポットに移植。



11月17日、3種類の色のパンジーと
キンセンカの植え付け。
キンセンカ100本。
パンジー3色合計303本

わくわく事業活動報告

団体名 家下川リバーキーパーズ	
事業名 地域の川で遊ぼう、生き物のすむ川を作ろう	
会員数 8 名	主な活動場所 上郷地区 家下川ほか
事業費(補助額) 40,500 円 (36,000 円)	
【主な使途】調査消耗品(草刈り機替刃など)、燃料費 ほか	
事業目的 ①生物の生息に適した具体的な川作りの方法を、河川管理者や関係機関と協働し家下川流域の豊かな環境を次世代に繋げる。 ②親子を対象とした川遊びイベントを通し、自然と親しみ「ふるさと意識」の芽を育てることで地元の自然の魅力を発信する。 ③生物調査や整備作業を定期的 to 実施し、水辺の環境状態を正しく把握し関係機関と共有することで課題解決を図る。	
主な活動内容 ・家下川水系での生物調査(月 1 回程度) ・家下川ヨシの刈取り、草刈り作業(3回) ・家下川たんけん隊(7月20日) ・畝部小学校 生き物観察会(9月14日) ・中大排水路整備場所でのかいぼり生物調査(12月1日)	
活動の成果 ・土地改良区と連携整備をしている中大排水路について、整備区間の生物調査から希少種を含む 16 種以上の生物の利用を確認し設置効果が認められた。 ・家下川のヨシの刈取り、堤防の草刈りを行い、地域の住民が安全に川で遊べる場の維持を行うことができた。 ・学校、子育て支援施設と連携した川遊び事業を通して、地域の子ども達が地域の水辺と親しむ機会を提供した。	
課題 ・昨年度に愛知県により実施された家下川の浚渫であるが、予算や施工上の問題で当初予定量を実施できず、数年のうちに再度ヨシの異常繁茂が発生する可能性がある。 ・今夏は例年になく猛暑続き、熱中症リスクが高い状態であった。夏季の屋外イベントの開催にあたっては、学校等連携先と協議を進めながら安全に開催できる方法を検討しながら取り組んでいきたい。	
今後の取組 次年度は、令和 5 年度より行っている豊田土地改良区と連携した中大排水路の整備をすすめると共に柳川瀬排水機場の解体工事に伴う生物の避難などの活動を予定している。 本活動の結果が、令和 6 年度には市内小学校の総合学習の教材として取り上げられるなど、その成果が多方面で活用されている。今後も積極的に関係機関との連携を行い、情報発信を行いながら流域全体の自然環境・生物多様性の保全に寄与できるようにしていきたい。	

活動の様子

◇川遊び体験（家下川たんけん隊、畝部小学校）



◇家下川でのヨシの刈取り、草刈り作業

家下川のヨシの刈取りや草刈りを定期的に行い、安全に川遊びできるように遊び場の維持整備を行った。



刈取り作業中



実施後

◇中大排水路でのかいぼり調査

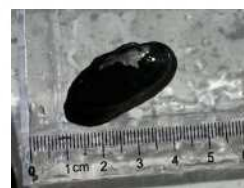
令和5年度末に行われた中大排水路の改修工事では、生物に配慮した深みなどが設置された。かいぼり調査を行い生物の利用状況を調査したところ、16種600匹以上の生物が確認された。希少種も数多く記録しており、設置効果が認められた。



調査中の様子



調査で確認されたトウカイヨシノボリ
（絶滅危惧種）



調査で確認されたイシガイ（絶滅危惧種）

わくわく事業活動報告

団体名 和太鼓 神兔	
事業名 伝統芸能和太鼓打ち手の育成と地域交流	
会員数 11 名	主な活動場所 上郷区民会館
事業費(補助額) 949,850円 (854,000円)	
【主な使途】 太鼓、カバー、台、バチ、法被	
事業目的 ”①和太鼓という芸能を通じて、協調性・集中力・度胸・礼節を養うとともに、『文化の伝承』『子供の健全育成』『健康で心豊かな生活づくり』など、地域住民の健康で文化的な生活向上に寄与することを目的とする ②地域活動への積極的に参加し、地域の伝統として根付くことを目標とする”	
主な活動内容 ・和太鼓の演奏法の習得と和太鼓演奏による地域交流 ・月4回程度の練習 ・地域イベント、お祭りなどへの演奏出演 ・地域や教育機関での体験会実施 ・教育機関との連携による若年層の地域交流	
活動の成果 ・地域の福祉事業所や中学校でワークショップを実施し、ハンデのある方の健康的な体作りに、人前で演奏する度胸や礼節、協調性、集中力等の向上に寄与した。 ・多くの太鼓体験会を実施し、幅広い地域の方に太鼓を用いて文化的で健康的な体験をしていただき、地域の方のQOL向上に貢献した。 ・上郷おいでん、上郷盆踊り、三河上郷駅前広場イルミネーション点灯式、高嶺ふるさとまつり、上和会ふれあいウォーキング等、多数の地元イベントにおいて和太鼓を演奏することで、イベントの盛り上げに寄与した。	
課題 ・団体の認知度がまだ低いので、さらに多くの地域のお祭りなどを盛り上げられるよう、地域の方と協力体制をとれる機会を設けていく必要がある。 ・新規会員の獲得が課題。体験会を実施し入会につながっているが、さらにメンバーを増やせるよう周知活動を拡げる必要がある。	
今後の取組 ・体験会やワークショップなどを引き続き多く開催し、地域の方に文化的で健康に寄与する機会を設けていく。 ・こども園、小学校、中学校などの教育機関での活動を拡げ、次世代の情操教育に協力し、地元に着根を持ってもらえるよう働きかけていきたい。 ・より多くのイベントで演奏し、地域活性の一助となれるよう努めたい。	

活動の様子

リハビリワークショップ / 特別支援級交流ワークショップ



親子体験会 こども体験会



各イベント 体験会



上郷中学校 コラボ演奏



各イベント 演奏



令和6年度 わくわく事業活動報告

団体名 川田まちづくり	
事業名 柳川瀬緑道美化事業	
会員数 15 名	主な活動場所 柳川瀬緑道歩道周囲
事業費(補助額) 555,744 円 (500,000 円)	
【主な使途】 燃料・培養土・肥料・花苗・防草シート・固まる土等の購入	
事業目的 ・ 柳川瀬緑道周囲の美化を向上させて 潤いのある安全で安心なまちづくりに寄与する。	
主な活動内容 ・ 緑道周囲の草刈・除草(草を生い茂らさない活動) ・ 季節の花植栽管理(基本 2回/年) 芝サクラ植え替え・補植 ・ 歩道の清掃(1回/月)・せせらぎ除草(2回/年) ・ 草が生えない対策(固まる土・防草シート施工)	
活動の成果 ・ 緑道周囲が綺麗になることで歩行者の方でゴミ・吸い殻のポイ捨てが少なくなりました。(不法投棄パトロール実施) ・ 花を育てることで高齢者の方も生きがいを感じて下さっています。(散策される皆さんからの『ありがとうございます』が励みになります)	
課題 ・ 高齢となり腰を曲げての長時間の植栽作業が大変でした。 ・ 草の生い茂りが早く草刈作業は高齢者には過酷でした。 早朝作業ができるように電動化を進めたい。	
今後の取組 ・ 花壇の世話・草刈作業を継承頂ける方を地域外を含め発掘。 ・ 電動草刈機を導入し周辺住民への騒音を低減して迷惑かけない。	

活動の場所 ※ 柳川瀬緑道遊歩道周囲



春・秋2回の植栽（高齢者にはかなりキツイ作業でした）



真夏の草刈作業は大変でした。

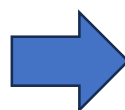
平地はモアーで効率化

電動草刈機導入⇒早朝作業可能



草刈・除草作業をなくするよう固まる土・
防草シート敷き

固まる土・防草シート敷き完了
56m



わくわく事業活動報告

団体名 高嶺まちづくりの会	
事業名 たかねふるさとまつり	
会員数 12名	主な活動場所 高嶺小学校 及び 米・そばの花栽培地
事業費(補助額) 1,137,174 円 (1,000,000 円)	
【主な使途】 米づくり体験と高嶺ルビー栽培	
事業目的 ○ 小学校と地域住民が協力しあい、「米作り体験」を通して、地域の農作物を知る機会や食の大切さを小学生が学ぶ機会を創出する。 ○ 「たかねふるさとまつり」を開催し、多世代の地域住民がふれあい、顔の見える繋がりある地域とする。 ○ 地域内に「高嶺ルビー」というそばの花を咲かせ、明るい地域にするとともに、「高嶺の名」を地域に密着し愛着をもってもらう。	
主な活動内容 ○ 「米作り体験」を通して、子どもたちに食の大切さ、地域の農作物を知る機会となる。 ○ 「たかねふるさとまつり」で地域住民の交流を図ることができる。 ○ 「高嶺ルビー栽培・鑑賞」を通し、地域が明るくなるとともに、住民が「高嶺」という地域で生活することに誇りや愛着を持つことができる。	
活動の成果 今年は、コロナ感染状況も下火になり子供たちに米づくり体験を実作業で手植え、手刈りを体験させることが無事できた。水のはいった水田に恐るおそる入る子、はしゃいでいる子、3年ぶりの子供たちの歓声が聞かれてうれしいひと時になった。 「たかねふるさとまつり」は、4年ぶりに開催することができた。多くの地域住民が参加し、子どもたちが作ったもち米を地域住民に紹介しながら餅を振る舞った他、地域団体による芸術発表等により地域住民の交流を図ることができた。 高嶺ルビーの栽培は、栽培地一面に赤いソバの花を咲かせることができた。 ただ、種を取る収穫については十分な成果を得られなかった。	
課題 今年はなんとか「たかねふれあいまつり」を実施することができ良かったと思う。みんなに喜んでもらうためにも米づくりで「餅米」の収穫量を増やすことが必要。 高嶺ルビー（そばの花）栽培・観賞では、種をたくさん収穫できるようにしなくてはいけない。自立した栽培地と栽培量の確保が前提となる。（今年は不作だった）	
今後の取組 栽培米を変更したい思いがあると学校側から出ているが、目的は「たかねふるさとまつり」で餅及びマスヅカ汁を振舞い、みんなで地元の地産品を知り、子供たちに将来のことを知ってもらい、地域を愛して欲しいとの思いでいる。その目的の為に子供たちとしっかりと向き合う継続的な活動にしていきたいと思う。	

活動の様子

<米つくり体験/年間通して>

◎田植え体験



稲架かけ作業



◎稲刈り体験



脱穀作業



◇(校内)5年生から



高嶺ルビー観賞



「たかねふるさとまつり」 11月24日(日)開催

わくわく事業活動報告

団体名 キッズプランナー	
事業名 みんなであそぼう！たのしもう！（みんなで子育て事業）	
会員数 15 名	主な活動場所 上郷交流館・畝部小学校・柳川瀬子どもつどいの広場
事業費(補助額) 412,000 円 (370,000 円)	
【主な使途】 ・親子遊びイベント、親支援講座、小学生居場所づくり講座等報償費 ・行事保険等保険料 ・チラシ用コピー用紙等消耗品費	
事業目的 「子どもの健全育成を図る」・「子育て支援・親支援」・「地域の居場所づくり」 ①子育て親子の交流の場の提供及び交流の促進 ②「みんなで集う子育て」ができる地域づくりのための世代間交流の促進 ③同じ悩みを持つ子育て親子の育児ストレスや不安を解消できる環境づくり（親支援）や、家に閉じこもりがちな子育て親子の呼び込み ⑤園児・小学生親子の講座開催や居場所づくりによる子どもの健全育成と地域づくり ⑥地域課題解決のための SDGs の取り組み。	
主な活動内容 ・親子イベントの開催（人形劇・コンサート・親子遊びの会など） ・親支援事業（共通の課題を持つ親同士の交流会、情報交換会） ・園児・小学生親子向けの講座・イベント開催（体力づくり・ものづくり・調理実習など） ・地域とつながり、世代間交流会の開催（地域の居場所づくり） ・ボランティアの育成	
活動の成果 ・毎月開催している未就園児親子イベントには、毎回 40 組ほどの親子の参加があり、リピーターも多く、逆に初めての参加も多かった。地域の同世代の親子がふれあえる場のニーズを感じている。（孤立や育児不安解消、親・子の仲間づくり）。会場では近くに座った親同士が会話を楽しむ様子も見られた。 ・親支援では、共通の課題を持つ親子の少人数（10 組程度）の交流により、情報や悩みの共有ができ、専門的な知識の習得や前向きな育児や親同士・子ども同士のふれあいにつながった。 ・小学生の居場所づくりでは、地元の小学校が会場という安心感もあり、1～6 年生まで幅広い参加があった。地域講師との交流も図れたり、子ども同士で協力する姿が見られたりした。また、参加した親が自分の子どもだけでなく他の子どもの面倒を見るなど、積極的に会に参加する様子も多く見られた。	
課題 ・孤立している親子の呼び込みの工夫。 ・休日の子どもの活動場所や居場所の減少に対する取り組みの必要性。 ・子育て親子や小学生だけでなく、多世代が安心して繋がれる居場所の必要性。	
今後の取組 ・地域課題である親子の孤立や子育ての不安の解消となるような活動の強化。 ・園児、小学生の講座開催とともに、世代間交流の会の開催の工夫（地域で子どもたちを見守る場所づくり、環境づくり）。 ・孤立しやすい子育て世代と高齢者がお互いに支援し合え、生きること前向きになれる会の開催。 ・地域への情報発信の方法、地元との繋がり工夫。	

活動の様子



親子向けイベントの開催 @上郷交流館

令和6年 4/12 5/10 6/14 7/12 8/9 9/13 10/11 11/8 12/13
 令和7年 1/10 2/14(予定) 3/14(予定)



親支援 @柳川瀬子どもつどいの広場

令和6年 6/1 6/11 11/12
 令和7年 2/1(予定)



小学生・地域の居場所づくり @畝部小学校・上郷交流館・家下川

令和6年 4/20 5/25 6/22 7/24 9/14 10/26 11/16 12/7 12/14
 令和7年 1/18 2/11(予定) 3/20(予定)

わ く わ く 事 業 活 動 報 告

団体名 元気の出る森づくりの会	
事業名 地域の人たちで、空き地を利活用できる環境整備	
会員数 33 名	主な活動場所 鷺鴨町上高根地域
事業費(補助額) 640,519 円 (576,000 円) 【主な使途】 業者による老木伐採費用、燃料・肥料・花苗・飲料水等購入 備品(チェーンソー、エアブロー)購入他	
事業目的 ① 高根地区に子どもが遊べる広場、地域の皆さんが集えるコミュニティの場所 づくり、及び健康づくりに向けた安全に散策できる環境整備を推進する ② 環境整備の一環として花壇を拡充し、「花いっぱい運動」を展開することで、散 策しながら景観を楽しめるやすらぎの場所にする	
主な活動内容 ・ 広さ5, 200㎡のうっそうとした、雑木林を整備してきた ・ 散策道の整備・エマファルトを敷き足元を安定化する ・ 散策道に手摺りの設置・子ども、お年寄りも安全に歩けるようにする ・ 花苗などを植え付け、景観を向上させて楽しみながら散策できるようにする ・ 安全面を考慮し老木の伐採の実施・伐採した樹木の有効活用(イス作り材料)	
活動の成果 ・ 活動を通してボランティアメンバー相互のコミュニケーションが向上できた ・ 子ども・お年寄りも自由に安全に散策できる環境整備を推進できた ・ 近隣の子も達が広場で遊ぶ光景や、散歩する人が増えてきた ・ 地域の方から環境整備用具の提供あり(一輪車・ノコギリ・剪定ハサミ他)	
課題 ・ 33名のボランティアメンバーの平均年齢78歳以上と高齢のため、体力的に無 理がきかない。又今後も環境を保全し、維持管理するためにも、後進の育成が 直近の重要課題です ・ 高齢になるほど、暑さ寒さに弱くなっているのでムリの無い活動を計画する	
今後の取組 (活動内容) 1、 環境の維持管理・樹木の剪定、草刈り、花壇の肥料等による土壌づくり・ こまめな水やりなど 2、 花壇の整備・拡張と季節に応じた花苗の植栽 3、 樹木の観察により、安全面を考慮した老木の計画的処理・手入れを推進	

活動の様子

老木の状態



業者による老木の伐採



伐採した老木の活用（イス作り）



7か所の花壇を分担して整備中



花の苗植え



芝桜園の草取り・植え替え・土づくり・肥料・水やり等こまめな手入れが必要



剪定した枝・草のコンテナー入れ（環境美化）



活動後の集合写真（平均年齢78歳チームワーク良く頑張って



階段作り



わくわく事業活動報告

団体名 鷺鴨音頭制作委員会	
事業名 鷺鴨音頭制作による地域の活性化と仲間づくり	
会員数 12名	主な活動場所 末野原地区
事業費(補助額) 552,714 円 (365,000 円) 【主な使途】 CD制作(楽譜・編曲・演奏・収録・プレス料等)、踊り振付、会場使用料 ほか	
事業目的 盆踊り大会等で活用する地元の音頭「鷺鴨ふれあい音頭」を新たに作り、地域の魅力を高め、仲間づくりや地域交流を活性化するためのツールとする。	
主な活動内容 区民より地域の特性(歴史・行事・文化・環境等)を表す「言葉・語彙」及び作曲等を募集し、応募作品を委員会で集約して作詞作曲をした。出来た作品に演奏・ボーカル・和太鼓・合いの手等を加えて収録したCDを制作し、踊りの振付等を行った。 完成した音頭に基づいて、区民に踊りの練習会等で指導をし、町内の行事「盆踊り大会」「ワイワイ祭り」や高齢者クラブの「芸能発表会」等で披露した。	
活動の成果 音頭制作に際し、区民から作詞・作曲、歌い手等を募集し、さらに踊りの振付、和太鼓の演奏、CDジャケットの写真等全てを区民で行った。 委員会のメンバーも、町内の各種団体の代表で構成することにより、区民が自分達の音頭として愛着を持ち、地域への関心と誇りを持つことができた。 今年度の「盆踊り大会」「ワイワイ祭り」をはじめ、高齢者クラブの行事等でお披露目することにより、参加者の増加とともに、各行事を盛り上げることができた。	
課題 「豊田市わくわく事業補助金」制度により音頭を創ることができたが、不足分の協賛金のお願いに腐心した。 自治区の回覧板等で協賛の協力について周知したが、音頭制作という過去に例のない事業のため、当初は賛同者が少なかったが、高齢者クラブの会員を中心に音頭の魅力を伝え、最終的には個人・企業のみなさんからたくさん賛同をいただいた。	
今後の取組 今後は自治区を中心に「盆踊り大会」「ワイワイ祭り」等の行事を始め、高齢者クラブ等の行事で継続して活用してもらえよう願ってきた。 各種行事で継続して活用することにより音頭が区民に認知され、町の定着した文化となり、地域の活性化を図ることができるよう援助していきたい。	

活動の様子

<毎月1回の製作委員会>



<駕鴨ふれあい音頭 CD収録>



<踊りの練習>



<いろんな場面で踊っていただきました>



駕鴨納涼盆踊り大会



高齢者クラブ 駕鴨中部学園芸能発表会



駕鴨町ワイワイ祭り

わくわく事業活動報告

団体名		宗心洞公園を守る会	
事業名		宗心洞公園の芝生およびその他環境の保全事業	
会員数	13名	主な活動場所	豊田市 御幸本町 地域
事業費（補助額）		523,643円（467,000円）	
【主な使途】		芝刈機用倉庫、集草機、燃料、トライ用冬芝・肥料・砂	
事業目的			
① 芝生を中心とした宗心洞公園の環境を保全し、地域のすべての世代が快適に利用できるようにする			
② 地域住民が主体的に取り組むことによって、地域のニーズに合致した公園とし、また地域の連携を強化する。			
③ 芝生広場を利用したイベント等を行い、地域住民のふれあいの機会を提供する			
主な活動内容			
・芝刈り、雑草除去			
・サッチング作業、夏季の散水作業の導入			
・地域交流イベントの開催			
活動の成果			
・バッテリー式芝生管理機によるサッチングを実施し、通気性等を確保し芝生の育成を促進することができた。また、スプリンクラーを導入し、夏季の日照による芝生の焼けを防止することができた。			
・芝生を活かした地域交流イベント（宗心洞公園フェスタ）を開催し、多くの地域住民が来場され、公園のすばらしさを理解いただくとともに、同会の活動を理解戴いた。			
課題			
・本当の芝生のエリアは公園の1/4程度となっており、その他は雑草を刈り揃えているだけの状態となっており、地域住民から拡張を望む声が多い。			
・「メリケントキンソウ」の繁殖が進み、4月から6月にかけては危険な状態となっている。			
・水道の水圧の制約で、夏季の散水が部分的にしか実施できず、設置位置の変更を何度も繰り返す等大変工数が掛かっている。			
今後の取組			
・公園の環境を活かしたイベントの企画・実行の継続			
・他地域のベンチマーク、勉強会等による活動のレベルアップ			
・メリケントキンソウの駆除（駆除方法の確立に向けた試行）			
・散水作業の効率化			

活動の様子



芝刈機・集草機による芝刈り・草刈り・収集作業



サッチング作業



散水作業



集草機の調整中



繁殖してしまっているメリケントキンソウ



宗心洞公園フェスタ（鳥人間コンテスト機）



宗心洞公園フェスタ（芝刈り作業デモ）



宗心洞公園フェスタ（ふれあいイベント）

団体名 渡刈町サポート会	
事業名 環境ふれあいサポート総括事業	
会員数 57名	主な活動場所 渡刈町地内
事業費（補助額） 886,965円（798,000円）	
【主な用途】井戸ポンプ代、鳥狩塚看板代及び整備材料代、燃料、肥料、軍手、作業のお茶 など	
事業目的 ② 学童通学路付近の草刈り及びゴミ拾いをして、安全、安心、クリーンな登下校通学路とする。 ②ちびっ子広場、ゴミステーション及びふれあい広場の花畑付近の草刈り等により、環境美化に努める。 ③子供の自然に触れ合う遊びの場が少なくなったため、「ビオトープ」と花畑付近一帯等の整備により、子供たちを始めとした地域の方々の“憩いの場所”として自然環境を保全・創造して次世代に継承する。 ④アルミ缶回収・売却により、団体負担金の補填継続をする。 ⑤鳥狩塚の整備作業をする。	
主な活動内容 ①『エコ堆肥でふれあい花畑』の継続。 ②ちびっ子広場、学童通学路付近、ゴミステーション及び花畑付近の草刈りとゴミ拾い『クリーンサポート』の継続。 ③鳥狩塚の整備作業をする。	
活動の成果 ※事業実施による地域で課題解決の効果、工夫した点 ①「クリーンサポート」事業は、年末の渡刈町役員による年末特別美化活動への協力参加まで含めて、20回（1月18日現在）の活動実施によりサポート会の活動が少しずつではあるが町民に周知されてきた。 通学路で見守り隊活動中のゴミ拾いは、他地区も同様のゴミ拾い活動に参加して頂き、今後一層の広がりを期待したい。 ②「エコ堆肥でふれあい花畑」事業は、区民会館北隣の広場を借用して花畑作業（ひまわり、菜の花の種まき）とエコ堆肥作業の実施により、環境美化での回収した刈り取った草のエコ堆肥化活用等で町民へのリサイクルの意識に貢献できた。 ③「アルミ缶回収活動」は、アルミ缶つぶし機によりアルミ缶の体積を十分削減でき、軽トラでの運搬が効率的にでき、活動資金の不足金に貢献できた。 ④鳥狩塚の木の伐採を業者に委託し、雑木林の間伐は完了したが、伐採後の回収撤去に想定以上の時間がかかり、伐採木は近隣の「暖炉の会」に再利用を依頼して有効活用及び効率撤去ができた。今後は散策道の整備に取り組む。	
課題 ※大変だったことや反省点 ①エコ堆肥でふれあい花畑事業の雑草対策に時間がかかり、作業の増員割振り対応が必要。 ②会員の高齢化により、参加会員数の伸び悩み。	
今後の取組 ※今後の活動予定や抱負など ①「エコ堆肥でふれあい花畑」を継続する。 ②学童通学路付近、ゴミステーション及び花畑付近の草刈り及びゴミ拾いをする。 ③アルミ缶回収を継続する。 ④鳥狩塚整備作業を継続する。⇒散策道の整備、花木の育成により「憩いの場」として、整備作業をする。	

活動の様子

通学路の草刈り



花畑の草刈り



アルミ缶つぶし



ちびっこ広場の草刈り



ビオトープ井戸 ポンプ更新



ビオトープ周辺の整備



鳥狩塚 散策道の整備



散策道の案内板設置



わくわく事業活動報告

団体名 ふるさと訪問末野原の会	
事業名 末野原歴史双六の作製	
会員数 13 名	主な活動場所 末野原地域
事業費(補助額) 136,600 円 (122,000 円)	
【主な使途】 印刷製本費用、事務費、会場費	
事業目的 ① 地域の皆さんに末野原地域の歴史を知ってもらう ② 双六遊びを通じて、末野原地域により親しみをもってもらう ③ 子供たちがふるさとの歴史に興味を持つ機会とする	
主な活動内容 ① 各自治区での双六大会 ② 学校での双六遊びを通じた歴史教育のお手伝い ③ 交流館などでの歴史講座ツールとして活用 ④ 地域外で、末野原地域の歴史を紹介するツールとする	
活動の成果 ① 地域の皆さんが、末野原の歴史に関心を持つ機会となる ② 地域の歴史を知ること、地域により親しみを持ってもらえる ③ 子供たちがふるさとの歴史に関心を持ち、ふるさとを愛する機会となる	
課題 ① 年度内に展開できなかった自治区・学校関係への展開 ② 双六遊び講師のトレーニング	
今後の取組 ① 今年度内に実施できなかった自治区・学校関係への展開は次年度事業として継続する ② より楽しく、分かりやすい歴史双六の活用方法の研究	

活動の様子



ふるさと訪問末野原の会で検討



第三者からも意見を聞く



末野原歴史双六の完成



交流館ふれあいまつりで展示 11/3



ふるさと歴史散歩 幸町編 10/23

わ く わ く 事 業 活 動 報 告

団体名 TONARI（トナリ）	
事業名 休遊地活用による地域コミュニティ活性化事業	
会員数 13 名	主な活動場所 隣松寺自治区地内
事業費(補助額) 343,041 円 (257,000 円)	
【主な使途】 消耗品費等	
事業目的 薄れつつある地域コミュニティのつながりを、地域での活動により若い世代や子どもたちを中心につないでいき、将来的な地域コミュニティや地域活動の活性化を目的としています。 また、子ども達に地域での学び、食育、防災等の活動を提供し、子どもたちの健全育成と地域愛の醸成を図ります。	
主な活動内容 地域の若い世帯の交流と子どもたちの体験を大切に活動を行いました。 ・畑作業（植え付け、収穫、コロケづくり） ・活動ロゴ検討ワークショップ ・Tシャツ作成ワークショップ ・昔体験（竹伐採&流しそうめん） ・防災ワークショップ（防災カードゲーム「クロスロード」、防災クッキング）	
活動の成果 様々なワークショップにより、隣松寺自治区に転入してきた若い世帯の大人や子どもたちに、地域や自分たちの暮らしのことを考える機会を提供するとともに、地域コミュニティにおいて重要であるゆるやかな関係性を構築する機会を作ることができました。 特に防災ワークショップでは、市救急救命士を講師に、防災マップを見ながら、防災カードゲーム「クロスロード」を活用し、災害があった際にどのように行動するかを大人と子どもが一緒に考え、より具体的な地域連携に関わる話をすることができました。また管理栄養士の講師による防災クッキングも実施し、子ども達も楽しみながら地域防災に触れる機会になり、大変有意義な会となりました。	
課題 徐々に TONARI の活動を知ってくれている家族も増え、新規参加など活動の輪は広がっていますが、もっと様々な地域の方に参加してもらい、効果的に活動を広げていくことが必要であり、課題と感じています。	
今後の取組 継続的に若い世帯や地域の方たちに活動を広報しながら地域コミュニティの維持・強化を図るとともに、今年度の活動で地域防災の必要性を改めて感じたので、定期的に若い世代が興味を持って防災を考える機会を設けていきたいと考えています。	

活動の様子(主な活動)

●活動ロゴ検討ワークショップ



●Tシャツ作成ワークショップ



●防災ワークショップ



**令和6年度 上郷地区・末野原地区
わくわく事業 活動報告書**

発行/豊田市 上郷支所